

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月10日

【四半期会計期間】 第79期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 塩水港精糖株式会社

【英訳名】 Ensuiiko Sugar Refining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 浅倉三男

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

【電話番号】 東京(03)3249局2381(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理グループ長 安戸久仁彦

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

【電話番号】 東京(03)3249局2381(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理グループ長 安戸久仁彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第78期 第2四半期 連結累計期間	第79期 第2四半期 連結累計期間	第78期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	14,109	15,454	28,431
経常利益	(百万円)	928	677	1,146
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(百万円)	622	580	1,004
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	63	285	604
純資産額	(百万円)	4,804	5,495	5,345
総資産額	(百万円)	28,329	26,442	27,748
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	23.18	21.62	37.39
自己資本比率	(%)	17.0	20.8	19.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	106	658	1,166
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	406	435	65
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	266	1,125	1,239
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,255	1,119	1,152

回次		第78期 第2四半期 連結会計期間	第79期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	9.43	32.76

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第78期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長引くデフレに加え、東日本大震災の影響による厳しい状況から個人消費に持ち直す動きが見られるものの、世界的な景気減速懸念や円高の長期化等の要因により先行き不透明な状況で推移しました。

当第2四半期連結累計期間の海外原糖市況は、期初27.44セント（ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり。）以下同じ。）で始まりましたが、2011/12砂糖年度における世界砂糖需給が大幅な供給過剰になるという予想から5月上旬に20.40セントまで下落しました。しかしその後、大幅な増産が予想されていた主要生産国ブラジルの産糖量が下方修正されたため、8月には当期間最高値の31.85セントまで値を上げました。9月に入ると、欧州の一部の国々の金融不安が深刻化し、世界的な景気低迷によるリスク回避から商品全般に調整が入る中、結局26.34セントで当第2四半期連結累計期間を終了しました。

国内精糖市況につきましては、東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）は期初189～190円で始まりましたが、海外原糖相場下落を受け、7月末に4円下げ185～186円となり、そのまま当第2四半期連結累計期間を終了しました。

かかる状況の中、当社グループは高品質で安心、安全な製品の安定供給を第一義とし、顧客満足度を一層高めるとともに、価格競争力の一層の向上に努めましたが、原材料価格の上昇から製造コストが増加したことにより、営業利益、経常利益ともに前年同四半期を下回りました。

以上のほか、保有有価証券の時価下落に伴い、1,789百万円の特別損失を計上しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,454百万円（前年同四半期比9.5%増）、営業利益は473百万円（前年同四半期比37.1%減）、経常利益は677百万円（前年同四半期比27.1%減）、四半期純損失は580百万円（前年同四半期622百万円の利益）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

砂糖事業

販売数量につきましては、4～6月期は夏場の電力不足懸念に起因したユーザーの前倒し生産による需要増があり前年同四半期を上回りましたが、7～9月期は節電によるユーザーの生産調整もあり、結局、4～9月期では前年同四半期を下回りました。

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間は国内販売価格水準の上昇に伴い前年同四半期を上回りました。また、セグメント利益につきましては、工場の連続操業や節電などに取り組みコスト削減に努めましたが、原材料価格の上昇等から製造コストが増加し、前年同四半期を下回りました。

この結果、売上高は14,272百万円（前年同四半期比10.3%増）、セグメント利益は883百万円（前年

同四半期比28.0%減)となりました。

バイオ事業

・オリゴ糖

家庭用は「オリゴのおかげ」の拡販を中心にブランド浸透に努めました。

業務用は、本年4月1日をもって家庭用と同じ「オリゴのおかげ」ブランドに統一し、ユーザーへの新規採用に向けた営業に取り組みました。

以上により、売上高は、家庭用、業務用ともに前年同四半期を上回りました。

・サイクロデキストリン(CDと略称。)

飲料、健康食品などの食品分野を中心に、ユーザーの新規採用に向けた販促に努めました。また、メタボリックシンドローム対応の機能素材の「サラシア属植物エキス末」の販促に取り組みました。

以上により、CD売上高は前年同四半期とほぼ同じとなりました。

この結果、売上高は744百万円(前年同四半期比1.5%増)、セグメント利益は64百万円(前年同四半期28百万円の損失)となりました。

不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました。

この結果、売上高は437百万円(前年同四半期比0.7%増)、セグメント利益は56百万円(前年同四半期比16.3%減)となりました。

研究開発につきましては、乳糖果糖オリゴ糖がインフルエンザ感染予防や感染後の症状軽減に効果があることを明らかにし、特許を出願いたしました。グルクロン酸の新製法に関しては、新規工業的生産技術のノウハウにつき継続して第三者への貸与等に努めました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み、副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しては、引き続き実用化を目指して研究開発を精力的に進めました。

また、農林水産省からの研究委託事業として取り組んでいる、米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材の開発につきましては、前期と同様に計画通りに研究成果をあげました。

バイオ製品(オリゴ糖、CDなど。)につきましては、一層の製造コストの低減と品質の向上に取り組むとともに、新たな機能の探索に努めました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失による減少があった一方で、投資有価証券評価損の計上及び法人税等の還付による増加等により658百万円（前年同四半期比551百万円増）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入等により435百万円（前年同四半期比841百万円増）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出等により1,125百万円（前年同四半期比1,391百万円減）となりました。

以上により、現金及び現金同等物の四半期末残高は1,119百万円（前年同四半期比135百万円減）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対応すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、60百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,000,000	35,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	35,000,000	35,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		35,000		1,750		345

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	平成23年9月30日現在	
		所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3-1	8,400	24.00
塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋堀留町2丁目9-6	7,890	22.54
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	1,495	4.27
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	603	1.72
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2丁目5-2	550	1.57
大東通商株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6-1	500	1.43
南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町3丁目2-9	500	1.43
CREDIT SUISSE (LUXEMBOURG) S.A. ON BEHALF OF CLIENTS (常任代理人 三菱東京UFJ銀行)	56, GRAND RUE L-1660 LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	468	1.34
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1丁目1-5	451	1.29
村上 真之助	兵庫県姫路市	390	1.11
計		21,247	60.71

(注) 南西糖業株式会社が所有している上記株式については、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制御されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,890,000		
	(相互保有株式) 普通株式 500,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,586,000	26,586	
単元未満株式	普通株式 24,000		
発行済株式総数	35,000,000		
総株主の議決権		26,586	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式111株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋 堀留町2丁目9-6	7,890,000	-	7,890,000	22.54
(相互保有株式) 南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町 3丁目2-9	500,000	-	500,000	1.43
計		8,390,000	-	8,390,000	23.97

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,152	1,119
受取手形及び売掛金	1,826	1,615
商品及び製品	796	1,022
仕掛品	194	157
原材料及び貯蔵品	1,520	1,690
未収還付法人税等	183	11
繰延税金資産	99	414
その他	1,172	1,074
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	6,946	7,106
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,339	9,367
減価償却累計額	4,484	4,615
建物及び構築物（純額）	4,854	4,752
機械装置及び運搬具	10,873	10,858
減価償却累計額	8,706	8,903
機械装置及び運搬具（純額）	2,167	1,955
工具、器具及び備品	365	371
減価償却累計額	308	319
工具、器具及び備品（純額）	56	52
土地	5,190	5,190
建設仮勘定	9	70
有形固定資産合計	12,278	12,021
無形固定資産	122	108
投資その他の資産		
投資有価証券	5,633	4,692
長期貸付金	1,187	1,322
繰延税金資産	1,484	1,099
その他	105	99
貸倒引当金	8	8
投資その他の資産合計	8,401	7,206
固定資産合計	20,802	19,336
資産合計	27,748	26,442

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,387	1,096
短期借入金	8,025	8,755
未払法人税等	29	38
未払消費税等	13	72
賞与引当金	65	67
その他	1,187	983
流動負債合計	10,708	11,013
固定負債		
長期借入金	9,934	8,212
退職給付引当金	1,272	1,240
役員退職慰労引当金	222	230
その他	264	249
固定負債合計	11,694	9,933
負債合計	22,403	20,946
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,422	6,706
自己株式	3,116	3,116
株主資本合計	6,322	5,606
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	912	57
繰延ヘッジ損益	65	53
その他の包括利益累計額合計	977	111
純資産合計	5,345	5,495
負債純資産合計	27,748	26,442

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	14,109	15,454
売上原価	11,493	13,172
売上総利益	2,616	2,282
販売費及び一般管理費	1,864	1,809
営業利益	752	473
営業外収益		
受取利息	47	23
受取配当金	145	126
持分法による投資利益	87	112
デリバティブ利益	-	5
雑収入	27	38
営業外収益合計	307	306
営業外費用		
支払利息	110	93
支払手数料	10	3
デリバティブ損失	4	-
雑損失	5	5
営業外費用合計	131	102
経常利益	928	677
特別利益		
投資有価証券売却益	0	56
特別利益合計	0	56
特別損失		
役員退職慰労金	0	-
投資有価証券評価損	-	1,789
環境対策費	7	-
その他	0	-
特別損失合計	8	1,789
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	920	1,055
法人税、住民税及び事業税	289	35
法人税等調整額	8	510
法人税等合計	297	474
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	622	580
四半期純利益又は四半期純損失()	622	580

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	622	580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	533	830
繰延ヘッジ損益	19	11
持分法適用会社に対する持分相当額	6	23
その他の包括利益合計	559	866
四半期包括利益	63	285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63	285
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	920	1,055
減価償却費	374	386
退職給付引当金の増減額(は減少)	17	31
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	19	7
賞与引当金の増減額(は減少)	0	1
貸倒引当金の増減額(は減少)	8	0
受取利息及び受取配当金	192	150
支払利息	110	93
支払手数料	10	3
為替差損益(は益)	2	1
持分法による投資損益(は益)	87	112
投資有価証券売却損益(は益)	0	56
投資有価証券評価損益(は益)	-	1,789
売上債権の増減額(は増加)	137	210
たな卸資産の増減額(は増加)	304	358
その他の資産の増減額(は増加)	15	167
仕入債務の増減額(は減少)	314	290
未払消費税等の増減額(は減少)	99	59
その他の負債の増減額(は減少)	14	211
小計	290	452
利息及び配当金の受取額	192	150
利息の支払額	114	96
法人税等の支払額	260	31
法人税等の還付額	-	183
営業活動によるキャッシュ・フロー	106	658
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	192	108
無形固定資産の取得による支出	-	2
投資有価証券の取得による支出	-	0
投資有価証券の売却による収入	1	741
投資その他の資産の増減額(は増加)	8	0
貸付けによる支出	511	560
貸付金の回収による収入	304	364
投資活動によるキャッシュ・フロー	406	435

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,450	300
長期借入金の返済による支出	1,049	1,291
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	134	134
財務活動によるキャッシュ・フロー	266	1,125
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	30	33
現金及び現金同等物の期首残高	1,285	1,152
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,255	1,119

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)	
太平洋製糖(株)	948百万円	太平洋製糖(株)	762百万円
計	948百万円	計	762百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
製品保管輸送費	467百万円	458百万円
販売促進奨励金	352百万円	344百万円
給料手当賞与金	265百万円	270百万円
賞与引当繰入額	62百万円	64百万円
退職給付費用	33百万円	30百万円
役員退職慰労引当金繰入額	19百万円	21百万円
減価償却費	34百万円	37百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び預金	1,255百万円	1,119百万円
現金及び現金同等物	1,255百万円	1,119百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	149	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,941	733	434	14,109	-	14,109
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	12,941	733	434	14,109	-	14,109
セグメント利益又は損失 ()	1,226	28	66	1,265	512	752

(注) 1. セグメント利益の調整額 512百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 512百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,272	744	437	15,454	-	15,454
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	14,272	744	437	15,454	-	15,454
セグメント利益	883	64	56	1,004	531	473

(注) 1. セグメント利益の調整額 531百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 531百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

時価のあるその他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が見られます。

その他有価証券

区分	取得原価 (百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額 (百万円)
株式	2,080	2,005	75
合計	2,080	2,005	75

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当第2四半期連結累計期間において減損処理を行い、投資有価証券評価損1,789百万円を計上しております。減損処理にあたっては、四半期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	23円18銭	21円62銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額() (百万円)	622	580
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額() (百万円)	622	580
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,860	26,860

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

塩水港精糖株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 内田 英仁 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 齊藤 直人 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 山口 俊夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩水港精糖株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、塩水港精糖株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。